

A300の思い出 その1 初便搭乗事始め

荒岡 衛

エアバス社はヨーロッパがアメリカの航空機産業に対抗するために作った国際共同事業体から出発している。もともとフランスにはシュド、ダッソー、ブレゲー、イギリスにはBAC、ホーカー・シドレー、ドイツにはMBB、ドルニエなど多くの航空機メーカーがあり、コメット、カラベル、メルキュールをはじめ多くの旅客機を生産してきたもののそこで競争しているのはボーイング、ダグラスなどに対抗できないので団結したものである。その最初のジェット旅客機がA300で1972年10月に初飛行、1974年5月にエア・フランスに初納入された。

このA300を初めて見たのは1978年9月フアンボロ航空ショーの時だった。当時胴体は大型なのにエンジンは2発、これで行けるのかと思ったが優雅な飛行展示があった。塗装は白をベースに黄、橙、赤、紺の4色の横縞模様のカンパニーカラー、垂直尾翼に大きくA300と書かれていた。その後、日本では東亜国内航空が導入を決定、なんと垂直尾翼の文字を社名TDAに変えただけでエアバス社のカンパニーカラーをそのまま利用した。

東亜国内航空のA300就航初便は1981年3月1日の東京発鹿児島行JD371便だった。日曜なので休暇をとらなくてもいいから是非とも乗ろうと考えた。これが新機種就航の初便搭乗の最初だった。当時は初便を狙って乗るマニアは少なく、予約は難なくとれた。東京からの便はその後鹿児島-福岡を2往復して東京に戻る。当然帰りもA300に乗りたいからそのJD378便を買った。

ところが直前になってアメリカ出張の話がでてきた。行先はコネチカット州ハートフォード、本来なら日曜出発で日曜着、翌月曜から打合せというところであるが、そうするとせっかく買った航空券がパーになってしまう。なんとか上司と交渉して出発を3月3日に延ばしてもらい、初便搭乗を達成した。またおかげで出張先で休日をはさむことができ見物もできた。